

A STUDY ON CORROSION EVALUATION OF STEEL REINFORCEMENT IN CONCRETE DURING INITIATION AND PROPAGATION STAGE DUE TO CHLORIDE ATTACK

ダリア, パタ

<https://doi.org/10.15017/2534439>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名	だりあ ばた Dahlia Patar				
論 文 名	A STUDY ON CORROSION EVALUATION OF STEEL REINFORCEMENT IN CONCRETE DURING INITIATION AND PROPAGATION STAGE DUE TO CHLORIDE ATTACK (塩害の潜伏期および進展期における埋設鉄筋の腐食評価に関する研究)				
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	濱田 秀則	
	副 査	九州大学	准教授	貝沼 重信	
	〃	九州大学	准教授	佐川 康貴	
	〃	鹿児島大学	教授	武若 耕司	

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、材料の異なるコンクリート中の鉄筋の腐食発生限界塩分量を明示するとともに、数 10 年という長期的視点で考えた場合、鉄筋表面への酸素供給量が鉄筋の腐食状況を制御する最も重要な要因となっていることを明らかにしたものであり、コンクリート工学、維持管理工学上寄与するところが大きく、博士（工学）の学位論文に値するものと認める。